

2015年 ピースボート地球大学 特別プログラム 「アジア共通の人間の安全保障は可能か」

2015年8月19日(水)～9月11日(金) [24日間]
横浜(日本)～セブ島(フィリピン)～シンガポール～ムンバイ(インド)



ピースボート地球大学とは

ピースボート地球大学は「地球一周の船旅」を活用した短期集中型の英語でのグローバル人材育成プログラムです。訪れる各地域での現場体験と洋上ゼミを組み合わせ、地球規模の問題を自分の問題として考える視点を養い、理解を深めていきます。専門知識を武器に、現場の声を確実に拾いながら、思いやり(empathy)と情熱(passion)をもって地球規模の課題を解決に導ける人材、先の見えない社会を牽引していく未来のリーダーのためのプログラムです。

※「ピースボート地球大学」は、NGOピースボートがコーディネートする教育プログラムです。学校教育法上で定められた正規の大学ではありません。



プログラム行程

参加者は2015年8月19日(水)に東京にて集合、現地でエクスポージャーを行った後に、横浜から第88回ピースボート地球一周の船旅を実施中のオーシャンドリーム号に乗船しました。途中セブ島とシンガポールに寄港し、ムンバイ(インド)にて下船。1泊2日のエクスポージャーを行い、9月11日(水)に帰国しました。

参加者

5か国から15名

日本 5名

東京外国語大学 3名 「『コンフリクト耐性』を育てる地域研究教育システムの開発と国際職業人教育機能の高度化」プロジェクトの一環として参加(2単位)

東京大学 2名 海外サマープログラムプレ GEFIL プロジェクトの一環として参加(奨学金付き)

韓国 5名

うち4名が韓信大学校(Hanshin University)からの参加

中国 3名

中国外交学院(China Foreign Affairs University)からの参加

インド 1名

ネパール 1名



ナビゲーター

金敬黙 [中京大学教授]

平和論、地球市民社会論等を教える。日本国際ボランティアセンター(JVC)およびオックスファム・ジャパン理事。博士(東京大学)

李起豪 [韓信大学校教授]

早稲田大学大学院政治学科を経て、韓国平和フォーラム事務局長。韓国韓信大学校「平和と公共性センター」所長。ノーチラスARI常任理事。博士(延世大学)

ラリータ・ラムダス [教育家・活動家]

女性運動と平和運動に関わる活動家。グリーンピースインドの創設メンバー、インドの新しい政党Aam Aadmi Party(AAP)のジェンダー政策グループのメンバー。

ゲスト講師

武者小路公秀(元国連大学副学長)、エラ・ガンジー(南アフリカ元国会議員・マハトマ・ガンジーの孫)、細川佳代子(スペシャルオリンピックス日本名誉会長)、ほか。

コーディネーター

川崎哲(ピースボート)

「地球大学特別プログラム」の特徴 ～ アジアから世界を変える

多様性を知る

地球大学にはアジア太平洋各国から参加者が集まります。バックグラウンドや専門の違う参加者と経験や意見を交わすことで、物事にはいくつもの見方があることを知り、様々な視点を比較・統合していく力を養います。

英語を使う

語学は学びのツールです。英語「を」学ぶのではなく英語「で」学ぶのが地球大学。ディスカッションやプレゼンテーションも行います。各地のアクセントに触れながら、グローバルコミュニケーションの力を鍛えます。

現地に学ぶ(エクスポージャー)

エクスポージャー(現地実習)を通して平和や人権、環境問題を検証し、現地に暮らす人々とともに解決策を考えます。「かわいそう…」から「私が変える!」に変わる。それが平和な社会を築く当事者への第一歩です。

プログラム内容

ユニット① 国家の安全保障、人間の安全保障、共通の安全保障 [洋上ゼミ3コマ+エクスポージャー]



東京・山谷でのエクスポージャーではテント生活をする当事者や支援に関わる人から話を聞き、貧困や差別をうむ社会の構造、またそれらの社会問題が見えづらくなるしくみについて考えました。その後の洋上のゼミではロールプレイやグループワークをふんだんに盛り込みながら、アジア地域を脅かす様々な安全保障の問題について、政府、民間企業、労働者、市民団体などのアクターの視点にたって考えました。ユニットのまとめにあたっては少人数に分かれた学生が30年後のニュースの見出しを考え発表し合いました。

ユニット② 国家の安定と紛争サイクルからの脱却 [洋上ゼミ3コマ+エクスポージャー]



紛争の形は刻一刻と変化しています。国家間の対立が主だった20世紀にくらべて、21世紀に入ると非国家組織の台頭やサイバーテロなどの事象が無視できなくなりました。洋上ゼミではこのような国際社会の変化についてについて元国連大学副学長の武者小路公秀教授を招いて議論しました。一方で自然災害が国や地域に与える影響は大きく、防災・減災も国家の安定に欠かせません。セブ島のエクスポージャーでは2013年の台風ヨランダの被害者との交流を通して、地域の防災と安全保障の関係を考えました。

ユニット③ 移民国家と人間の安全保障 [洋上ゼミ3コマ+エクスポージャー]



職を求め、安全を求め、人は国境を越えます。しかし、多民族共生は一夜にして成し遂げられるものではなく、移民自身も受け入れ先となる地域も課題を多く抱えています。洋上ではフィリピン人の移民の問題に詳しいカルメリータ・ヌキ氏も交えて移民問題における国家や国際社会の役割について考えました。シンガポールのエクスポージャーでは、バングラデシュからの移民を支援する団体を視察して当事者から事情を聞いたほか、シンガポール国立大学のリークワンユン公共政策大学院にてシンポジウムを行いました。

ユニット④ 新興国における人間の安全保障 [洋上ゼミ3コマ+エクスポージャー]



新興国においては経済的な発展と持続可能性とのバランスが大きな問題となっています。また、その中における人々のくらしの質や安全も大切な課題です。洋上ゼミでは地球環境問題やエネルギー問題などを取り上げながら、特に社会運動などを通して人々がどのように課題の解決に関わることができるかを考えました。マハトマ・ガンジーの孫であるエラ・ガンジー氏からは非暴力運動についても学びました。ムンバイのエクスポージャーでは参加型の開発のありかたを学ぶべく地元の人たちの暮らしぶりを視察しました。

アクションプラン アジア共通の人間の安全保障にむけて [洋上ゼミ5コマ]



プログラム期間中、学生は2つのグループにわかれ、移民問題と自然災害の問題をそれぞれ扱いながら問題解決にむけたアクションプランの作成に取り組みました。シンガポールやセブ島でのエクスポージャーでの学びをいかしながら、国家だけに頼るのではなく、地域社会や国際的な市民ネットワークをいかしながらより多くの人にとって暮らしやすい社会を実現するためには何ができるかを提言としてまとめました。洋上では、完成したアクションプランを一般の乗船客にむけて発表する機会も設けられました。

来年度の開催予定

ピースボートでは2016年8月および10月にそれぞれ2週間前後の地球大学特別プログラムの実施を予定しています。詳しくはお問い合わせください。

問い合わせ先

ピースボート事務局

Tel: 03-3363-7561

Fax: 03-3363-7562

univ@peaceboat.gr.jp

<http://peaceboat.org/projects/univ>